27PE-pm058

星一と宮様の交際

○三澤　美和[1]([1]星薬大・薬理)

星一と宮様の交流が記録に残っているので紹介する。1922（大正 11）年 5 月 18 日に伏見宮博恭殿下が、東京府平塚にある星製薬商業学校にお台臨になった。殿下は武官お一人をしたがえて御微行のかたちで御来臨された。当日は午前９時に御着社、星一社長の案内で、質素で平常通りのままを見て頂いた。工場では、第一工場内の第一館から新築されたばかりの第４新館で技師、職工、女工、職員の作業を、星一の説明に耳を傾けられつつ御見学になり、細菌部、火夫が石炭を投げ込んでいる機関室、キナ粉末の散飛するキニーネ工場、女工が薬の包装をしている包装室、各薬品の試験製造作業等を熱心に御覧になった。星幼稚園の次ぎに、親切第一神社に御参詣の上、星製薬商業学校に向かわれた。殿下は、星製薬商業学校講堂、星薬業講習会講堂、寄宿舎などを巡回され、折から講義中の「商事要項」や「生理解剖衛生一覧」の授業もお聴きになった。御質問を各所でされるなどし、また新築中の記念大講堂（現在の星薬科大学本館）の有様を御覧になりお帰りになられた。大正 11 年 2 月 5 日が星製薬商業学校の創立開講日であるが、殿下の来校を記念して創立記念日は同年 5 月 18 日とされ、星薬科大学の創立記念日は今日でも 5 月 18 日である。その後同年 9 月 20 日に朝香宮鳩彦殿下が、次いで 1923(大正 12)年 3 月 20 日には第二皇子である秩父宮雍仁殿下が、1926（大正 15）年 1 月 27 日には、北白川宮永久殿下、竹田宮恒徳殿下、李鍵公子も工場と星製薬商業学校を御訪問になった。当時の最先端の産業工場であり、名声を極めた星製薬株式会社への御興味で御来臨されたのであるが、各殿下がこうして相次いで見えられたことは、星一の人物のスケールの大きさを物語っていよう。